

さやまの今本

第101話

堀兼の六地藏さん



昔大八車にたくさんの荷を積んで、行きかう人々も、辻のお地藏さんまで来ると、「あー、お地藏さんだ、ここまで来ればもう安心だべ!」といって手を合わせて通りすぎていったそうです。近所の子ども達も、六地藏さんの前で遊んでいる分には、大人たちも安心して、仕事に精が出たそうです。街道も広がり、車の往來の激しくなった現在も、この六地藏さんの前では、大きな事故が起らないのだそうです。

この六地藏さんは、貞享二年(1686)に造られたもので、今も小さなお堂の中に安置され、人々の安全を見守りつづけております。

旧川越街道・北入曾と堀兼の境の辻に、市内でもめずらしい六地藏さんがたっており、正式には石幢六地藏菩薩と呼ばれ、六角の面それぞれに、お地藏さんが彫られています。

六地藏とは、この世で犯した罪のむくいに、死後閻魔王の裁きにより、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人道、天道の六つの世界に落ちて罪のつぐないに、長い苦難の歳月を過ごす、信じられておりました。そのときに、救いの手をさしのべるのが、六つに分身したお地藏さんだそうです。



わかるかな?

今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの中に掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか?

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名の方に記念品をさしあげます。官製はがきで、広報課宛お送りください。
締め切り:10月31日(当日消印有効)



【9月10日号の写真クイズの答え】
2ページ、サンパーク奥富の多目的浴室の写真でした。

表紙の写真

9月27日、澄みわたった秋空の下、堀兼中学校で体育祭が行われました。工夫を凝らしたダンスや、型が決まるたびに拍手が起こる組体操など、生徒たちが競技に取り組む姿は真剣そのもの。中でもリレーは特に白熱し、クラスの代表が力の限り走る姿に、応援席からたくさんの声援が送られます。秋の行事を代表するこの一日を、いっそう熱く、そして思い出深くしてくれる一場面でした。



埼玉県生態系保護協会狭山支部
高橋昇さん(中新田)

あけび(木通)

(アケビ科アケビ属)

山野に自生しますが、庭木や盆栽にも仕立てられる、つる性で背の低い落葉樹です。パツクリと口を開けたような実の形から「開け美」の名前がついたと言われています。

手のひらのような形の葉は、3~5cmほどの細い15枚の葉から成っていて、雌雄同株です。紫色の果実は約10cmになり、秋に熟すると裂けて、半透明のゼリー状の甘い果肉が顔をのぞかせますが、小さな黒い種が多く、食べにくいこともあります。茎は薬用として使われていて、春の若芽も食べることができます。つるは、かごなどの材料として編んで利用します。似た品種に、やはり果肉が甘いムベ(トキワアケビ)がありますが、果実が裂けることはありません。